

表2 数字

1	ሀ	A	11	፫	70	፳	O
2	ለ	B	12	፬	80	፳፩	Π
3	ገ	Γ	13	፭	90	፳፪	φ
4	ወ	Δ	14	፮	100	፳፫	P
5	ጌ	E	15	፯	200	፳፬	
6	ኔ	ς	20	፰			
7	ዘ	Z	30	፱			
8	ሀ	H	40	፳			
9	፱	Θ	50	፳፩	1000	፳፭	
10	፲	I	60	፳፪	10000	፳፮	
				፳፫	100000	፳፯	

ない。これからして、エチオピア文字は南アラビア文字順を土台にし、形態上の類似性から再配列を行なったと考えられよう。外来音を表記するために新たに作られた p' および p を表わす文字については、p' はその基になった s' の前に置かれ、p は末尾に置かれた。こうして、全体の配列が確定したのである。

もう1つ別の配列順に、アブギダ (abugida) と呼ばれるものがあるが、これはヘブライ文字順を踏襲したもので、順序は次の通りである。

- ' , b , g , d , h , w , z , ḥ , ṭ , y , k , l , m , n , š ,
- ' , f , s , q , r , s , t , ḥ , p , d , p

辞書において、語の配列がこの順序で行なわれる例がしばしば見られる。

3) 書写方向 左から右へ横書きされる。刻文資料においても縦書き例は皆無であり、また、プストロフェドン (牛耕式) の例も見られず、疑わしい1, 2例を除けばすべて左横書きである。したがって、エチオピア文字の成立の段階で、すでに書写方向は左 右に固定していたのであろうと思われる。

4) 句読点 この種の記号で碑文に現われるのは単語分離記号のみであるが、まったく使われていない碑文も多い。単語分離記号には縦線とコロンの (:) の2種類が認められ、同一碑文中に両者が混在している例も見られる。ただ、コロンの現われるのは、圧倒的に母音表記の行なわれている場合であり、時代順に縦線からコロンのへという移行が考えられる。現在ではそのほかに、4つの点からなるピリオドにあたる文終止記号 (⋮) や、コロンのコンマにあたる ⋮ , ⋮ が使われるが、厳密な用法はない。現在、これらのうちで必ず使われるのは文終止記号だけである。単語分離記号は、新聞などをはじめとして近年あまり使われなくなり、単に単語間にスペースを置いて区切るだけの場合が多くなっている。

図1 最初期のエチオピア文字

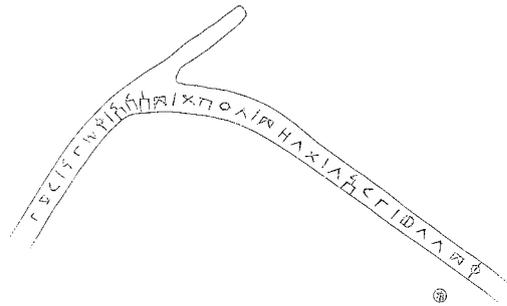


図2 18世紀初頭の写本の書体 (グエルフ体)

በከመ፡ተናገሮ፡
ለሙኪ፡በዓምደ፡
ደመና፡ወከማሁ፡
ዪቶናገሮሙ፡

注) 言語はゲエズ語。

- (1) bākāmā tānagāro
- (2) lä-muse bā'amdä
- (3) dämmāna wä-kāmahu
- (4) yətnaggäromu

(神が) モーゼに雲の柱で語ったように。そしてこのように彼らに語る...

5) 数字 エチオピア文字では、各字母を一定の数値をもつ数字として使う用法はなく、ギリシア文字方式を借用し、字形に多少の変形を加えた記号を作って数字とした(表2)。この際に、エチオピア文字の字形にできるだけ近い形になるように考えられた。ただし、借用も1から100までであり、それ以上はギリシア文字方式とは異なり、たとえば200は数字2と100となるし、千は10と100、1万は100を2つ並べて書かれる。したがって、たとえば1986は、数字10, 9, 100, 80, 6を左から並べて書くのである。

【文字見本】 図1, 図2, 図3を参照。

図1は、エチオピア文字と呼ぶことのできる、最初期の字形である。ブロンズ製品(神への奉納品?)に刻まれており、紀元200年頃のものと考えられる。

左から右へ, gdr/ngšy/'ksm/tb'l/mzlt/l'rg/wllmq と書かれており, 「アクスムの王 GDR は 'RG と LMG に?? (tb'l/mzltの部分については、解釈の一致を見ておらず不明)」と読める。母音表記が導入される時期以前ののものであるので、王名等の正確な読みは不明であ